

再度、三度知育偏重を排す

児 玉 省



最近朝日新聞社が朝日教育ノート「のびのび」という月刊誌を発行した。知らずにて人から教えられて購読した。『何とかして子どもが喜んで学校に行き、いきいきとした生活を送れるようにしてやりたい。そして進学問題で今ほど苦しまずにすむようにしてほしい。この父母や教育者の願いを実現するために、最大の被害者である子どもの立場から教育をとらえなす。これが本誌のねらいです』と書いてあった。朝日のちょうちん持ちをする意志は一つもないし、また同誌の編集はまだ荒けずりでとのつていない。しかしこの趣旨には全面的に賛成である。そうしてこういう雑誌が出てきたこと、そしてこれは一つの運動として出現したことに百分の賛意を表するものである。

本誌にまた一文を書くように頼まれたが、勝手に書けと言われ

たら、筆者もまた「のびのび」誌と同じようなことを書くしかない。これは筆者がこの何年か、あちこちで繰り返し書いたことであるが、またここにこの意見を開陳する。お眼ざわりであるかもしれないが、筆者と反対の考えの方は、筆者のいおうとすることをもう一度読み直していただきたい。

子どもは幼児期からおけいこごとに通わされ、幼稚園・保育所では教師や保育がワークブックを使つての小学校まがいの授業を受け、小学校に進学する前になると、有名小学校へ進学するために小学校周辺の塾に通う。そのために有名小学校の周辺には平均二十ぐらゐの塾があるという。これはもちろん全部の子どものことではないが、かなりの子どもに見られるということが伝えられておる。そしていまの子どもは、二十年前の子どもに比べて体

力、運動能力が落ちていた。日本保育学会が一九五四年に全国的に七千名以上の幼児を調査し、一九六九年も同じく七千名以上を調査したところでは、十五年後の方が、運動能力が劣っている。

社会性も発達が遅れている。藤田教授と筆者の調査では、いまの幼稚園児は——恐らく保育所も——けがをする子どもが以前に比べて非常にふえている。けがというのは、すり傷までのことではなくて、骨折とか、針で縫うような傷のことだけであるが、そういう子どもが、以前に比べて倍以上に増えている。ちなみに、この調査を行なったのは、藤田教授が園長である園児のことで、ここでは、運動場はコンクリートではない。体位が落ちてきているということは、医者、体育関係者、その他からも指摘せられていることであるが、こういう子どもを前にしながらも、なおかつ幼稚園や保育所は、子どもに数や字をワークブックで教えて、小学校の下うけ的な作業をしなければならないのであろうか。これは園の意志ではない。親の強い要請——場合によっては圧迫——による、というように説明される。

去年の夏ある大学の先生たち（名前は出してもいいかもしれないが）が園児以上の年齢の子どもたちを野外キャンプ生活につれて行った時、子どもたちは野に行っても林の中に入っても、老人のようにおとなしくて、野外の自然の持つ誘いにのって、はつら

つと動き回り、走りまわることをしない。仕方がないので先生が見本を示すように、木にのぼって見せたところ、子どもは、ただ傍観者として見るだけである。こうして子どもたちは、野や林の木や花の名前を教わって自然科学的な知識はつけてきたが、自分で花を探し木を発見し、自分で積極的探究心を発揮し、のびのびとした生活の中に養われるたくましさや獨創性はどこに行くのであろう。子どもらしくない子ども、老成した子ども、体力的に劣った子ども、人間関係が豊かでない子どもになっても、ワークブックの教育が必要なのであろうか。

筆者にはどうしても合点がゆかない。筆者はこういうひねた子どもを作ることを黙認し、または奨励しているのは、幼稚園や保育所の先生や保母さんだけの責任ではない。これは母親や父親も大いに責任がある。また小学校も責任がある。と考えている。小学校は、子どもが初めて一年生に上がった時にすでにある程度の漢字！を知っていることを期待しているような教科課程を組んでいる。小学校の先生はよく、新入の子どもの親に、その幼稚園時から、「お子さんが小学校にいらした時にお困りになりますから、漢字や数を教えておいた方がいいですよ」という懇切な指導をしているのである。これでは小学校に責任あり。しかし責任は小学校だけではない、小学校体制・中学校体制の責任者、文部省にも

大いに責任がある。結局のところ、社会全部に責任がないとは言えない。しかし世の中には、こういう先知主義的教育に反対する人も多いのに、これを無視しているのはだれであるか？

筆者はいま、この責任を追求しようとしているのではない。筆者は、子どもの体位、体力の回復と人間性の回復を主張すると同時に、子どもの知性の発達を望んでいるのである。その点決して人後に落ちるものではない。ただ筆者は知性の育成のために、体位・体力・人間性を犠牲にはならないということを主張し、また知性の伸張は、ワークブックや塾的な教育で、適当に促進されるものではない。それは子どもの発達に真に則し、また科学の教えるところに従ってこそ、行なわれるものであることを主張しているのである。ワークブック式幼児教育法その他がなぜいけないか、筆者は現在の心理学や教育等が教えるところから、これを否定し、かつ、そのいけないことの科学的理由を示したいと考えるのである。

ソビエトは子どもの知性を早くから開発することを目標としていると言われるが、それでも日本の幼稚園やいわゆる教育ママがしているようなことはしていない。子どもの知性の発達をもっと科学的根拠に立って考えている。

児童心理学者、ジャン・ピアジェには、乳幼児にいつから知能が

出現するかについて、それは言葉より前に出現するものであるとして、言葉がまだできない乳幼児にもすでに運動感覚的な知能があることを認めている。むしろ運動感覚的な能力の形で知能が作用しているものとしている。乳幼児期においては、運動感覚的活動こそは思考が生まれる源泉としている。乳幼児期の行動は外面的思考の形を取らないで主として運動感覚的な水準のものである。

この種の知能を運動感覚的知能、または実際の知能と呼んでいる。子どものこれらの行動こそは、あらゆる知的行動の内容または原料となるものである。そして発達とともに、これらの行動は徐々に内面化されてくる。すなわち頭の中の活動になってくる。しかし抽象的で複雑な思考さえも、もとをただせば初期の簡単な運動感覚的な行動が内面化され、抽象化されてきたものである。すなわち先行した活動に源を発するものである。

知的能力の開発は個人だけでは不十分である。他人と接触し、他人から学び、他人によって確認されると同時に他人にも伝達することが必要である。この伝達からも自ら学んでいるのである。ただし他人から消極的に与えられるというのではだめで、他人や社会から積極的に吸収するのだけければならない。ピアジェはまた知能の性質として、手探りの、実験的、試行錯誤的であることを主張している。自ら手探りし、出くわした場面や経験を改訂し

ながら進行するものとしてゐる。もっぱら文字を教えることをねらっている教育ではこの点どう考えているのであろう。

またソビエトの児童心理学は、幼児期の学習において無意志的記憶の重要性を指摘している。すなわち幼児は何かしているうちにおのずとおぼえていくのであって、自分でおぼえようとしておぼえるのではない。したがって、幼児によく物をおぼえさせるためには、何かさせておいて、その経験のなかで身につけさせることであつて「覚えなさい」といって学習させることではない。これはソビエトの学者たちが実験によつて見いだしていることである。ワークブック学習がいかに科学性を無視した方法であるかわかるであろう。こうして発達して、それから、だんだん意志的な記憶ができるようになってくるのである。

早期指導の結果がどうなるかについては、日本にもいろいろの研究がある。幼稚園、保育所でよく文字を教えておいて、子どもはおぼえる能力があるから、早期に教育したらいいという議論をする人がある。たしかにやらせればある程度おぼえることはたしかである。しかしその結果がどうなるかについて十分に観察する人はどれだけいるだろう。

聖和女子大学の黒田実郎教授の研究では、幼稚園で一クラスには漢字を教え、他のクラスには教えないでおいて、小学校進学後

の成績を比較したところ、教わっていたクラスの子どもは小学校一年のはじめには、もちろん漢字能力がすぐれていたが、その後二年になった時には、教わった者と教わっていない者との差は全然なくなつてしまつた。こういう研究は、わが国にたくさんある。それならば幼稚園児でなくては経験できないようなことを、なぜさせておかなかつたらうと思ふのである。また一宮女子短大の三神弘子さんの研究では、早くから読字指導を受けていた三、四歳児は、なるほど文字はおぼえていたが、小学校入学後三カ年間の国語成績は、むしろ指導を受けていなかった方が国語の成績がよかつた。これは年齢、性別、家庭層、知能指数と全部マッチさせて調べた結果である。この点について三神さんは、早く文字をたたきこまれたため、自分の発達、思考の方向が知つている文字に制限、方向づけられてしまつて、思考の自由な展開をさまたげたのではないかといつてる。

筆者も次のような経験がある。幼稚園でテストして、子どもたちに絵本の雨降りの絵を見せて、この絵の話をしなさいといつて、させたところ、ほかの子どもは、つたないながら細かく観察して説明をしたのに、字を知つていて、また「雨降り」の歌を習つていた子どもは、雨降りの歌をうたつただけでよした。もっと何かいいなさいというと、「もうこれでおしまい」といつた。結

